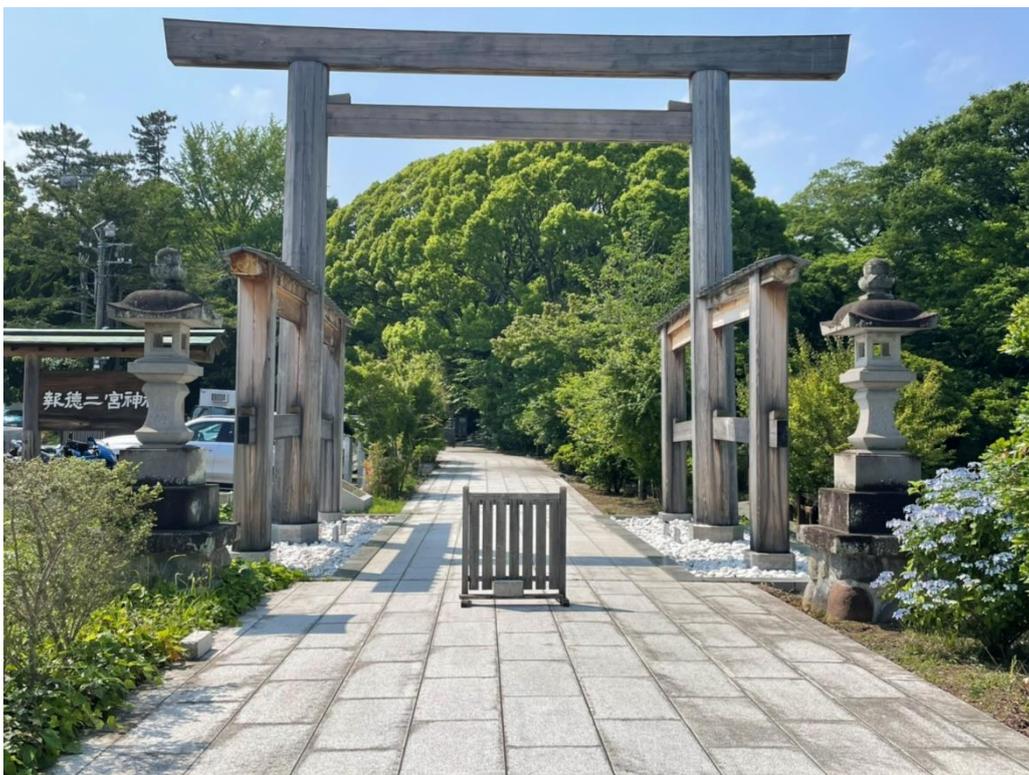


ほうとくにのみやじんじゃ 報徳二宮神社



● 歴史

ほうとくにのみやじんじゃ、にのみやそんとく かみさま まつ じんじゃ
報徳二宮神社は、二宮尊徳を神様として祀った神社です。

た 建てられたのは、めいじ 27年（1894年）いま から124年ねんまえ前、そんとく尊徳の

おし した 6か国（いず みかわ おうみ するが かい さがみ ほうとくしゃ
教えを募う6カ国（伊豆、三河、遠江、駿河、甲斐、相模）の報徳社の

そうい じんじゃそうけん すす
総意により、神社創建が進められました。

ほうとくしゃ、ほうとく おし もと けっしよそしき いってい きょうどうてきもくてき たっせい
報徳社とは、報徳の教えに基づく結社組織（一定の共同的目的を達成す

るために組織された特定とくていの多人数たにんずうの継続けいぞくてき的な集合しゅうごうたい体）。

はいでん じんじゃ、てんぽう おおききん さい てんぽう ねん てんぽう
拝殿（神社）は、天保の大飢饉の際（天保4年（1833年）から天保

10年（1843年）のあいだ お さくもつ と た で き
10年（1843年）の間に起きた、作物が取れず、食べることが出来

ずな亡くなる人ひとが多おほかった時ときのこと、おだわらはんはんしゅ おおくほこう めい めいれい
ず亡くなる人が多かった時のこと）、小田原藩藩主の大久保公の命（命令）

により二宮尊徳が小田原城内の米蔵を開き、米が人々の手にわたったことにより小田原11万石(石は、米の体積を量る単位で、1石=100升=140kg~150kg)の領土内から食べ物を食べることが出来ず亡くなる人を出さずにすんだという、その米蔵の礎石(建物の柱を受け
る土台石)が使われています。

● 地域との関係

小田原の地域だけでなく、多くの地域の再興に貢献し、神として祀られており、全国各地に報徳神社が存在します。

この神社では、学業成就・商売繁盛(経営)・災難厄除・出世財福・

手・足腰など体の健康の御利益があるといわれ、結婚式や受験前に詣でる方が多く居ます。

● 関連するチェックポイント

- ・二宮尊徳記念館(小田原市)・・・二宮尊徳の生涯や功績を知ることが出来ます
- ・めだかの学校(小田原市)・・・小田原で地域のために関わった人々やところ。